

一般口演

一般口演11

医療データ分析5（経営分析）

2018年11月24日(土) 09:00 ～ 11:00 E会場 (5F 501)

[3-E-1-2] 統合マスタの構築後の経営支援でのデータ活用

○西山 謙¹, 山下 貴範², 中島 直樹² (1.九州大学病院 経営企画課, 2.九州大学病院 メディカルインフォメーションセンター)

【はじめに】 本院では電子カルテ・オーダーシステム、医事システム、部門システム（放射線、手術、内視鏡）、物流システムなどの各システムのマスタメンテナンスを各部署が個別に行っていたため、管理が煩雑となり整合性が合わない事象が散見されていた。平成25年1月稼働の病院情報システムにおいて、システム間でマスタを横断的に管理する統合マスタを構築（第一報）し、統合マスタの品質管理（第二報）を行い、データ活用を試行した(第三報)。今回は、経営支援での更なる活用において報告する(第四報)。【方法】 「診療科別」や「患者別」の収支データ以外に新たに「診療行為別収支データ」を対象として病院経営への活用を試みる。収入データは医事システムの保険請求データとする。支出データは電子カルテ・オーダーシステム、部門システムから診療実施データと物流システムの購入マスタを活用する。診療行為別では、診療科コードや患者IDのように1つだけとは限らないので、定義を決めてデータを選定する必要がある。今回は病院の収支データの中でも影響度の大きい手術部で実施した術式に限定して作成を行う。【結果】 手術部で実施した796種の術式別の診療行為、薬剤、診療材料を把握し、収入データ、支出データを把握することができた。特に術式別の収支では、診療科別や患者別の収支データと組み合わせることで収支金額を把握し、これを手術部、診療科の医師に示すことで、経営改善の取り組みの情報共有が可能となった。更に、これらを病院経営に関連する会議や病院経営層にも認識を促すことで、病院経営への良い影響を及ぼすことが出来た。【まとめ】 統合マスタを高い品質で管理し、診療行為別の収支データの病院経営への活用を可能とした。診療行為データをもとに診療現場と情報共有を行うことは、病院経営の次のステップを明確にできる判断基盤の一つである。また、「マスタあつてのデータ」という認識も重要であり、今後も統合マスタを中心とした品質管理を継続することが重要であると認識している。

統合マスタの構築後の経営支援でのデータ活用

西山 謙*1、山下 貴範*2、中島 直樹*2

*1 九州大学病院 経営企画課、*2 九州大学病院 メディカルインフォメーションセンター

Utilizing data in management support after construction of integration master

Ken Nishiyama *1, Takanori Yamashita *2, Naoki Nakashima *2

*1 Kyushu University Hospital, *2 Kyushu University Hospital Medical Information Center

Utilize medical treatment implementation data generated from the integrated master and try to utilize "balance data by medical examination actions" for hospital management.

We were able to grasp the income data and expenditure data by grasping the medical treatment, medicine, medical treatment materials by 796 types of surgical operations carried out at the surgical department. Utilizing the income and expenditure data, inventory management, review of surgery preparation operation, proposal for price reduction were made possible.

We made it possible to utilize the balance data to inventory management, revision of operation preparation, and proposal of price reduction. By encouraging the situation to the hospital management related conferences and hospital management and propose improvement efforts, we were able to share a sense of crisis and saving waste of income and expenditure management.

Keywords: Balance data by clinical practice, Trend and variation, Consciousness

【緒論】

本院では電子カルテ・オーダーシステム、医事システム、部門システム(放射線、手術、内視鏡)、物流システムなどの各システムのマスタメンテナンスを各部署が個別に行っていたため、管理が煩雑となり整合性が合わない事象が散見されていた。2013年1月稼働の病院情報システムにおいて、システム間でマスタを横断的に管理する統合マスタを構築(第一報)し、統合マスタの品質管理(第二報)を行い、データ活用を試行した(第三報)。今回は、経営支援での更なる活用において報告する(第四報)。

【目的】

企業経営では収入と支出を正確に把握することは最も基本的な要素であるが、病院経営では未だに多くの課題を抱えている。変動費の領域では、病院収入の管理は保険請求データに基づいて行われ、支出管理は診療実施データが根拠となることが望ましい。特に診療と関係性が深い、薬品と診療材料の診療実施データを把握することは重要である。統合マスタから発生した診療実施データを活用し、「診療科別」や「患者別」の収支データ以外に新たに「診療行為別収支データ」を対象として病院経営への活用を試みる。

【方法】

マスタの視点では診療行為のマスタを束ねた統合マスタと収入の医事マスタと支出の物流マスタからなる。データの視点では、診療実施データとして、電子カルテ・オーダーシステ

ムのデータが存在する。収入データは診療実施データと連携した医事システムの保険請求データとする。支出データは診療実施データと連携した物流システムの購入マスタを活用する。この2つのデータから「診療行為」に絞った収支を算出する。「診療行為別収支データ」では、診療科コードや患者IDだけが共通とは限らない。使用目的に合わせて、定義となる共通キーを決めてデータを選定する必要がある。今回は病院の収支データの中でも影響度の大きい手術部に局限する。2017年度のデータを使用して、共通キーは術式とし作成を行う。術式ごとの収支データを把握して、執刀する診療科の医師や手術部と情報共有を行う。

【結果】

手術部で実施した796種の術式別の診療行為、薬剤、診療材料を把握し、収入データ、支出データを把握することができた。第二報での統合マスタの品質管理の継続的な取り組みの確認もできた。特に術式別の収支では、診療科別や患者別の収支データと組み合わせることでドリルダウン的に収支金額を把握し、これを手術部、診療科の医師に示すことで、経営改善の取り組みの情報共有が可能となった。

術式別の詳細データでの意見交換では、類似の術式での傾向や、ばらつきの度合いから統一の方向性を探る声があった。特に診療材料では、セットの見直しや価格の低いものへの変更が行える可能性を秘めている。収支データを活用して在庫管理、手術準備運用の見直し、価格低減の提案を可能とさせた。診療材料を使用する診療現場と契約、価格交渉を

行う事務部門でのお互いの業務を理解しながら取り組みの筋道が作れた。

更に、これらを病院経営に関連する会議や病院経営層に状況の把握を促し、改善取り組みを提案することで、収支管理の危機感や無駄を省く意識を共有できた。手術を行う関係者だけでなく、むしろ手術に関係がない診療科、診療部門へのインパクトは大きく、気づきや自分たちの診療内容にも置き換えて、イメージしてもらうことで病院経営への良い影響を及ぼすことが出来た。

【考察】

診療現場の医師や看護師も術式ごとにどれぐらいの収入と費用がかかっているかには興味がある。経営の観点では、むしろ把握しておいていただきたい事項であり、経営管理者と情報共有を図るべき項目である。そこから経営の内容に踏み込み、経営改善の取り組みを協同する糸口となる。

病院費用には減価償却費や人件費等の固定費があるが、診療現場への固定費の経営改善での取り組みは受け入れがたい項目であり、最終手段と思われる。それに比べて変動費での薬品と診療材料の診療実態を可視化することでの経営改善の取り組みは診療現場で理解を得やすい。医療の質においても固定費より、変動費を優先して着手することが望ましいように思われる。何より会話が一方通行でなく、コミュニケーションを加速させる。

【まとめ】

統合マスタを高い品質で管理し、診療行為別の収支データの病院経営への活用を可能とした。診療科別というカテゴリーを更に超えた疾患、手術のグループ単位で経営支援となるデータとなった。診療行為データをもとに診療現場と情報共有を行うことは、診療行為の傾向を示すことが可能となり、より改善の取り組みを具体化、方向性を一緒に検討し、病院経営の次のステップを明確にできる判断基盤の一つである。また、「マスタあつてのデータ」という認識も重要であり、今後も統合マスタを中心とした品質管理を継続することが重要であると認識している。